

地域金融

金井さん/鄭さん

VC

堤さん/秦さん

融資・債券

末吉さん/清水さん/橋爪さん

AO/AM

安間さん//宮本さん/坂本さん

ICEA

安間さん

ソーシャル指標

松原さん/石井さん

インパクト志向金融枠組み検討会

水口先生（事務局）

昨年7月～12月にかけてコアメンバーで7回に渡って議論を重ね、S指標カタログ『インパクトファイナンスの実践～ソーシャル指標を活用した事例と実務のヒント～』を作成中

### 概要

- 過去にSocial指標分科会で扱った7つの事例をIMMの枠組みで紹介するもの。総括として、7つの事例を踏まえたインサイトを示す。
- 想定読者は、インパクトファイナンスに取り組む金融機関の実務家を主眼に置く。これに+行政、事業会社の人材を含めた“ソーシャルプロジェクトのコーディネーター”の参考になることを目指す。
- ボリューム感としては読者が手に取りやすいようコンパクトにまとめ、導入や構成で読者の“つかみ”を得るよう工夫する。
- 作成行程で得られた示唆を、S指標分科会の発展的解消後の活動に生かす。

### 進捗・予定

- 1月末を目途に、事例提供元による初稿確認を実施中
- 成果物のデザインはコアメンバーでもあるインパクトサークル様のご協力
- 3月末の完成を目指し、IDFI署名機関にもパブコメを実施予定

## 検討会の目的

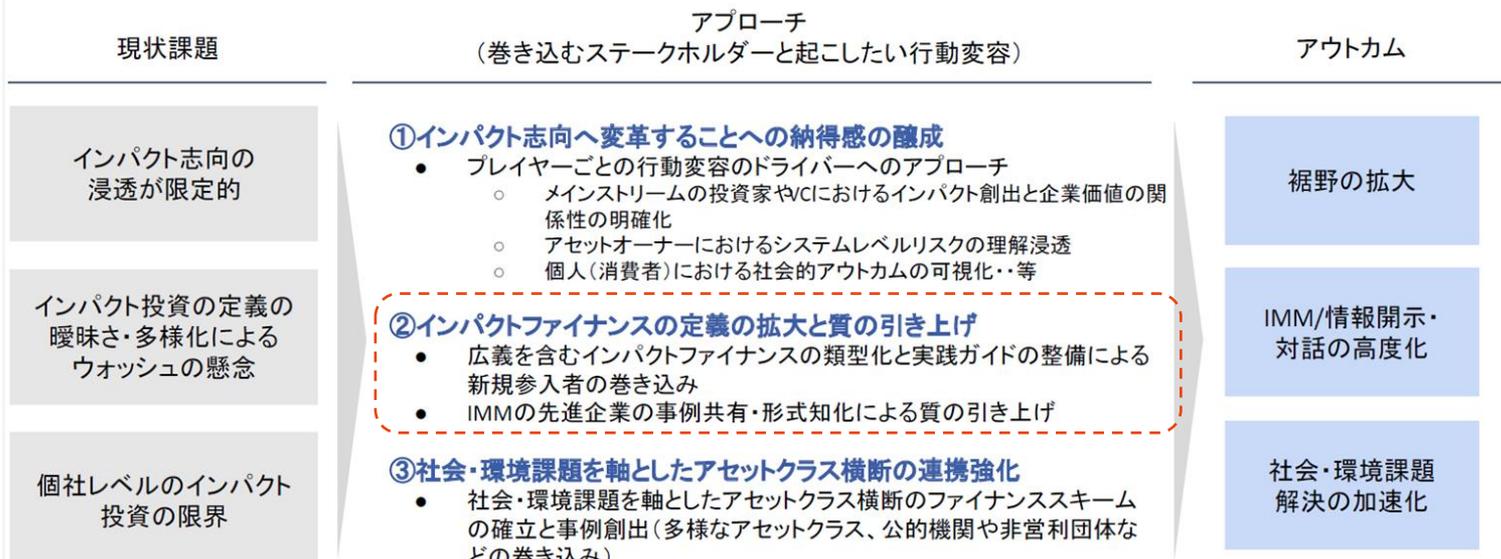
中期計画の「インパクトファイナンスの定義の拡大と質の引き上げ」に関する活動として、広義を含むインパクトファイナンスの再定義やガイダンス整備を行うこと。

成果として、市場の拡大（新規参入者の巻き込み）や質の引き上げを目指す。

## IDFIのTheory Of Change (概要版)

Japan Impact-driven Financing Initiative

ビジョン: 金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、  
環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生みだしていく



## 検討会の目的

最終的な目的は、ビジョンを実現すること

IDFIのビジョン（要約）

資金の流れを可能な限りインパクト志向に変革し、  
環境・社会課題が自律的に解決されるような金融システムを実現すること。



- ・ 環境・社会課題が「自律的に」解決されるには、ごく一部の資金だけがインパクト志向では足りない。  
（その他の資金の影響の方が大きいので）
- ・ 一定割合以上の資金がインパクト志向に変わることが必要 ⇒ **すそ野の拡大**  
（IMMを伴う厳密なインパクト投資だけで実現可能か？）
- ・ 単にハードルを下げて質が下がったのでは、自律的な解決はできない ⇒ **ウォッシュの防止**
- ・ 個別のインパクトも重要だが、それだけでは自律的な解決にはならない ⇒ **システム志向の導入**



上記の目的を実現する「インパクト志向金融」の枠組みとは何か？

判断基準：実質的に「環境・社会課題の自律的な解決」につながるか

## 検討会での議論

第1回 (11/12)	Kick-off (インパクト志向金融の枠組みをめぐる論点の発散的議論)	・ 既存の定義やフレームワークの再確認、課題認識の共有、論点に関する議論
第2回 (12/23)	「インパクト志向金融」の領域についての議論 (IDFIの対象活動となる領域・境界線についての議論)	・ 関連用語や概念を整理したうえでインパクト志向金融の領域について仮説を元に議論
第3回 (2/17)	プロGRESSレポートの算入基準やガイダンスの議論 (融資債券分科会のインプットも参照)	
第4回 (3月末)	中間取りまとめと残りの論点の整理・議論	

実施済み

## 検討会での議論

インパクト志向金融の領域（仮説） Japan Impact-driven Financing Initiative  
[目的と行動に基づく概念的な整理]

インパクト志向金融に含まれる

インパクト志向金融に含まれない

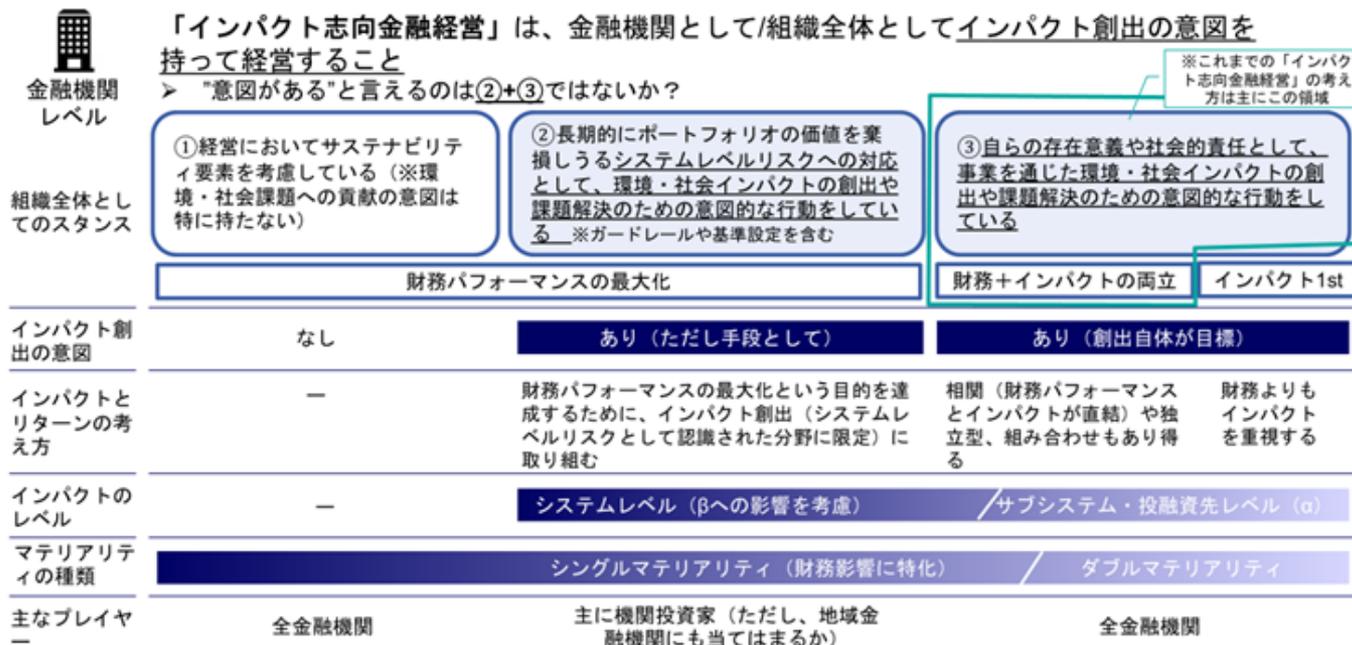
最終的な目的 具体的な行動	財務リターンのみ	インパクト (財務リターンと並んで目的とする場合も含む)
インパクト創出への意図的な行動が見られない	(a) ESGインテグレーション: 財務的にマテリアルな環境・社会要素を考慮(シングルマテリアリティ)。結果的にインパクトを生む可能性もあるが、意図的ではない	(b) インパクトの意図があると言いながら、インパクト創出に向けた具体的な行動が伴わない (例: ターゲットがBaUの域を出ない)
個別金融レベル(投融資先レベル)でのインパクト創出への意図的な行動	(c) 財務リターンを目的としているが、手段として戦略的にインパクトを意図しており、IMMを実施している(意図: シングルマテリアリティ)	(d) IMMの実施、または戦略、測定、マネジメントの一部で具体的な行動がある。 (意図: インパクト1stまたはダブルマテリアリティ)
限定的システム(サブシステム)でのインパクト創出への意図的な行動	想定なし (複雑に絡み合う課題を「システム」としてとらえ、根本原因の特定と介入を実施する場合、当然ながら課題解決を目的とするため)	(e) システムチェンジ投資 複雑に絡み合う課題を「システム」としてとらえ、根本原因の特定と介入を実施(IMMの高度化)。
システムレベルでのインパクト創出への意図的な行動	(f) システムレベル投資の具体的な行動をとる(最終的な目的がリターンであっても、環境・社会に実質的なインパクトを与えなければその目的が実現しないので、事実上、意図性がある。ガードレールや基準設定といった活動も含む)	(g) システムレベル投資も、ダブルマテリアリティの立場で行う場合も考えられる

▶横軸(目的)ではなく、インパクト創出への意図的な行動の有無が境界線か?

## 検討会での議論

Japan Impact-driven Financing Initiative

## インパクト志向金融の領域（仮説） [枠組みの整理]



## 検討会での議論

Japan Impact-driven Financing Initiative

## インパクト志向金融の領域（仮説） [既存定義との関係整理]



プロダクト  
/サービス  
レベル

インパクト志向金融（プロダクト/サービスレベル）の領域は、金融機関のファンドやプロダクト、サービス単位で、インパクト創出の意図があるもの

- > 意図があるのは「②-c全体」→広義のインパクトファイナンス（インパクト〇〇〇<新しい名称>）
- > 意図があり測定・マネジメントを実施しているのは（②a+b）→従来のインパクトファイナンス

## ① ESGインテグレーション★

（※環境・社会課題を考慮しているが、インパクト創出への意図は特でない）

## ②-c環境・社会インパクトの創出を目指すファイナンス&lt;インパクト〇〇〇&gt;

<意図あり+測定なし>

例：

- ・インパクト目標にアラインした投融資
  - ・特定のサステナビリティ課題解決に資する投融資
  - ・システムレベルのリスクに対応するための投融資 etc.
- ※いずれも測定・マネジメントしていればa, bに組み込まれる

## ②-b. GIINの定義★

<意図あり+測定あり；財務的リターンと並行してポジティブで測定可能なインパクトを創出する意図を持つ>

## ②-a. 金融庁の「基本的要素」★

<GIINの定義+変革の要素あり>

★：確立している定義・要件がある

従来インパクトファイナンス  
の周辺領域として整理してきた  
領域（※レポートのLv.0）

従来のインパクトファイナンス  
の領域（レポートのLv1&2）

## 検討会での議論

主な意見：

- インパクト投資（プロダクトレベル）はシステムレベルとは異なり、一緒にするとグローバルな「インパクト」との乖離やガラパゴス化のリスクがあるのでは
- システム思考の取り組みを特定ファンドと考えるのは狭すぎであり、総合的な施策の一つとして「財務リターンのみを目的とするファンドを設定する」手段は実際に存在する
- 「意図的な行動」の線引き（宣言、文書化、IMMの徹底など）をどう考えるのが課題
- 「結果を問う」こと自体は難しいが、PDCAが回っているかを求めていく必要がある
- 測定するつもりがないことと、システムチェンジで現状有効な方法を模索しているが故に測定がないことを、同じ「測定なし」の分類に分けるのは違和感がある
- ダブルマテリアリティ/シングルマテリアリティの線引きは難しい場合もある